非暴力平和隊・日本(NPJ) ニューズレター

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

第１７号

〒113-0001 東京都文京区白山１－31－９ 小林ビル３階

Tel:080-5520-3077 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp

Fax:03-5684-5870 Website:http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/ 2007年3月2日発行

巻頭言

民族紛争について考える

ＮＰＪ理事 阿木 幸男

「非暴力平和隊」が非暴力的和平解決のために取り組むスリーランカ・プロジェクトにおいて、直面する民族紛争の根は深く、なかなか、和平解決の糸口が見えて来ない。和平交渉のテーブルに当事者がつき、平和に向けて、１歩前進したように見えたのも束の間、２歩、３歩、後退するということの繰り返しである。

和平のために側面からサポートして来た国際社会や現地でＮＧＯとして活動を続ける「非暴力平和隊」のような団体のスタッフの失望感、ストレス、そうしたネガティブな思いを乗りこえようとする葛藤、努力が続いている。何よりも現地に住む住民たちにとって、一種の「あきらめ」と「やり切れなさ」の度合いがふかまっているのでは、と察している。

現在、世界各国で民族紛争が続いている。一見、終息したかに見える紛争も、「火種」は残り続けているというのが現実である。主なものとして、「アフガニスタン紛争」、「アルジェリア紛争」、「クルド人問題」、「ソマリア内戦」、「チェチェン独立紛争」、

巻頭言 民族紛争について考える 阿木幸男・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
ＮＰトレーニング報告① 荒木梢 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
ＮＰトレーニング報告② 徳留由美 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
冬季カンパのお礼 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
地球の子ども新聞に特集記事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
総会・理事会のご案内 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
第５回 希望のための非暴力セミナー／非暴力ワークショップ・・・・・・１０
事務局だより、ほか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

「旧ユーゴスラビア紛争」、「キプロス紛争」、「北アイルランド紛争」、「東ティモール紛争」、「イスラエル・パレスチナ問題」、「北ウガンダ紛争」、など。

スリーランカにおいては、国連機関、ノルウェー政府を中心としたヨーロッパ各国政府が和平交渉を促進する努力の継続があり、ＮＧＯ、市民団体も粘り強く活動を継続している。

どんなに失望的な状況になっても、あきらめないこと、和平への道はあると信じること、スリーランカで起きていることや暮らしている人々へ関心を向け続けること、どんな小さな声でも発信し続けることこそ大切ではないか、と思う。

活動や行動の効果が、具体的に、眼に見える形で見えて来ない期間が長くなればなるほど、私たちは「無力感」を覚えるものである。こうしたことを続けて、何の意味があるのだろうか？と。

以前、ウォーターゲイト事件で大統領の地位から失脚したニクソンの日記を読んだことがある。ある１ページが鮮明に記憶に残った。

ある日、ホワイトハウスの窓から外を見ると、１人の男が抗議のプラカードをもって、ホワイトハウスの前の道に立っている。ニクソンは秘書官を呼び、その男の背景を調べるように命ずる。スタッフを総動員して調査するが分からない。イライラしたニクソンは終日、その日に予定していた仕事に手がつかなかったとのこと。

たとえ１人の行動であっても、いつか、100 人、1000 人、１万人と拡大していくことをニクソンは恐れたのであった。

アメリカではまた、キング牧師の暗殺事件での白人解説者の黒人指導者に対する傲慢な態度にショックを受けた小学校教師、ジェーン・エリオット先生は画期的な実験授業を、その次の日から始める。「子どもたちを差別というウィルスから守りたい」という思いで。人種差別について、生徒たちに体験的に深く考えてもらう２日間の授業。その様子はＡＢＣ放送のドキュメンタリー番組、「青い目、茶色い目――教室は目の色でわけられた」となる。その授業を受けた生徒たちほぼ全員に 10 数年後、テレビ局がインタビューする。大半がライスピルという小さな町に残り、暮らしていた。そして、体験した実験授業を鮮明に覚えていて、肌の色や目の色でけっして人種差別しないことを実践していた。

民族紛争を解決する、政治的、社会的、集団的試みはもちろんのこと、こうした個人的な実践なら、一市民として日常的な場面から取り組めるのではないだろうか。

ＮＰトレーニング報告

2006 年 11 月 15 日より同年 12 月９日にかけてＮＰトレーニングがナイロビで行なわれました。日本からは荒木梢さん、徳留由美さんが参加されました。お２人にトレーニングの様子について報告していただきます。

Nonviolent Peaceforce Africa Regional Core Training についての報告

荒木　梢

今回ケニアでの Nonviolent Peace-force のコアトレーニングに参加するという機会に恵まれました。北アイルランド、イスラエル／パレスチナで模索した非暴力の可能性を追求する絶好のチャンスだと思い、期待に胸をふくらませケニアへと向かいました。

トレーニングはナイロビで NP の member organization である地元 NGO、ChemChemi Ya Ukweli のサポートのもと、アセスメントを含め 11 月 15 日 から 12 月９日にかけて行われました。

参加者は様々な国から、24 歳から 65 歳までそれぞれいろいろな経験がある人たちが集まりました。私はトレーニングでは最年少ということもあり、本当に毎日が勉強の連続で充実した時を過ごすことができたと思います。この報告書では主に、私が新しく発見したことや学んだことについてお話ししたいと思います。

＊

トレーニングの流れとしては、前半は基礎知識やチームビルディングに重点が置かれ、後半はより深いディスカッションやシミュレーションが行われました。

私が今回一番苦労したことはグループワークでした。これまでにも違う文化を持った方たちとの共同作業はたくさん経験があったのですが、今回ほど難しいことはありませんでした。５人ほどの小さなグループにもかかわらず、一つのプレゼンテーションを作るのにどれだけ時間がかかったか分かりません。皆それぞれが自分の意見を主張するだけでなかなか思うように進まなかったのです。

NP のスタッフとしてフィールドで活動する時はよいチームワークは不可欠です。このトレーニングでは性別や年齢による壁をなくそうということがしばしば言われ、それは達成できたと思うのですが、知識（またはアイディア）を持っている人と持っていない人の壁をなくすことはとても難しかったと思います。やはり知識を持っている人は話が長くなりがちで、そんな

中でアイディアや経験が少ない人の声は消されてしまったのではないかと思います。限られた時間の中で一人ひとりが参加し、効率的に物事を進めるということはとても大事です。その中で知識を持っている人と持っていない人との力関係を減らすことは重要なことだと思います。

そしてトレーニング中考えることの多かった“Nonpartisanship”。政治的な活動に関わらなかったり、政治的な見解を示さなかったりすることです。この理論をもとに活動することになると、ある特定のグループにだけ関わるということはできなくなりますね。北アイルランドでもイスラエル／パレスチナでも、私はどちらかというと政治的に抑圧されている人たちと一緒に活動をすることが多かったので、これは私にとって新しい分野で、またいい挑戦でした。ただ弱者のために何か力になりたいと思う気持ちを越えて、弱者と強者の関係を少しでも公平にしようとする。そんな魅力そしてダイナミックが NP が実践している“第三者による仲介”の中にあると思います。

キスム市にあるヤラという所で行なった住民へのインタビュー、そして企業への訪問はこの考えを実行するにあたっていい機会でした。力や金銭を利用して住民を抑圧する企業と、彼らの力だけではどうすることもできない地元住民の状況――この不公平な構造が NP の訪問によって少しでも減ることを望みました。トレーニングの一環としての活動だったので、それ以上続けることができなくて本当に残念でした。

また２回行なったシミュレーションの中で住民の役をすることがあり、彼らの気持ちが（私なりに）ほんの少しでも理解できてよかったと思います。この時は NP スタッフ、LTTE のメンバー、住民、祭りの主催者、国連スタッフなどの役がありました。シミュレーションながら私は拉致され、引きずられ、そして子供兵士にさせられました。シミュレーション中は三度拉致されたのですが、また LTTE が来るのではないかとずっとびくびくしていました。

＊

このようにトレーニング中は新しい発見の連続であり、そして平和へ向けて活動を続ける参加者との出会いがあり、参加者の一人としてあの場にいることができたことにとても感謝しています。近い将来 NP のスタッフとして活動することを楽しみにしています。

最後に、NP ジャパンの皆様、助成金をいただき本当にありがとうございました。トレーニングだけで終わらせることなく、学んだことを生かしこれからも新しいことにどんどん挑戦していきたいと思っています。

Training Report～ケニアにおける研修報告書
Nonviolent Peaceforce - Africa Regional Core Training

徳留　由美

ケニアにおいて2006年11月15日より同年 12 月 9 日にかけて、Nonviolent Peaceforece（非暴力平和隊）のコア・トレーニングが行なわれました。

研修にはトレーナーを合わせて総勢 29 人、17 カ国から参加者が集まりました。皆それぞれに個性豊か・経験豊かな人たちばかりで、お互いに学びあう事が多々ありました。

◇

研修の最初の１週間は新しい環境と仲間に適応するいい時間となりました。研修をサポートしていた ChemChemi Ya Ukweli が準備した滞在場所であるシャロン・ハウスは設備も整っており、快適な場所でした。ナイロビ市内にも近く（車で 20 分程）、便利すぎる面もありました。実際トレーナーの方たちも今までの研修場所で一番設備のしっかりしている場所で、派遣先となる地域ではここまでの設備が準備されているわけではないと、述べていました。

本格的な研修は 11 月 20 日から開始しました。研修は午前・午後・夜の３部構成になっており、形式的には討論・質疑応答が多いものでした。朝のセッションは８時半から始まり休憩をはさみ、昼の 12 時半まで。昼は少し遅く３時から６時半まで。夜は８時から９時というスケジュールで進みました。時間通りに進行しようとトレーナーの方たち、参加者たちも努力はしたのですが、話が盛り上がると止まりにくく、時間が延長してしまう事は毎日のようにありました。

内容として、DVD などの映像を利用して、ウガンダ・スリランカ・フィリピン等の現状を言葉だけでなく視覚として見ることで、意見交換なども積極的に行なわれました。またこの訓練を通して、自分の中にある「恐怖心」についても見つめ直す事ができました。

◇

研修は現地においての心構えから始まり、紛争分析・解決や交渉術、そして安全策（セキュリティー）の分野にまで広がりました。またチーム内での役割分担や、地域住民との交流関係なども多く語り合いました。特にたくさんの時間を割き答えの出しにくかったのが、宗教・信仰心についての論議の時間でした。

信仰心・宗教心などは、チームだけでなく、フィールドワーカーが活動する国柄・地域にも深く関わりを持ってくるものなので、さまざまな意見が交わされました。それは、チーム内でお互いの事を知る事のできる大切な時間であったと思います。私

たちは特に Mutual Understanding（相互理解）や Mutual Respect(相互尊敬)を考え直し、未来に向けたポジティブな解決方法を模索しました。それは参加者全員にとってよいメンタル・トレーニングとなったと感じました。

◇

また現場シミュレーション練習は研修の内容を濃いものとしました。大型のシミュレーションは合計３回実施されました。最初のシミュレーションは昼間４時間位を使い、ＮＰオフィスを取り巻く環境や身近な問題（武力勢力・政府軍とのやりとり、また民間人の問題など）を取り上げました。私はＮＰの現地スタッフの役を担いました。

２回目は夜間バスを使いビクトリア湖近くのキスム市まで移動し、住民たちが直面している問題をレポートしました。現地の貧しい人たちが、アメリカ人が出資しケニア人が経営している農業政策会社の灌漑事業により、生活場所から水没という形で追われるという現状に面していました。頼り訴える場所や団体もなく、途方にくれている現地の人たちに直接インタビューをする事ができました。また実際にその会社を突撃訪問する事にもなり、活発なインタビューができました。私は映像の記録係としてビデオを通して、現地の人達を映し出す経験を持つ事もできました。

３回目は夜間を通して行なわれました。設定はスリランカにあるお寺で催されるお祭りにおいて、子供たちが武装勢力によりさらわれて子供兵士にされてしまうというものでした。私はお寺のお祭り実行委員会の役を与えられました。現場には外から呼んだパフォーマンスの人たちもおり、それをまとめる事もまかされました。暗闇の中での活動は何かと不便な事も多く、実際に派遣先での状況に近い練習ができたと思います。

◇

４週間の研修は、お互いの経験と知識を分け合い、そして新しい事を吸収し、刺激を与え合えた意義あるものだったと感じています。

個人的には現地でスラム街（特にキビラ・スラム街）における子供たちを救うために建てられた青少年育成センターの手助けを、少しですがすることができました。それはキブリ・センターと呼ばれ、高校３年生までの子供たちが共同生活をしている所でした。彼らは物質的・精神的支援を必要としていました。私はケニアの日本大使館と連絡を取り、センターの理事をしている方と「草の根人道支援」への申し込みをすることができました。良い結果が得られればいいと願っています

また、今は早くこの経験を応用し、学ぶ姿勢を忘れずに、活かしたいという気持ちでいっぱいです。

ＮＰジャパンにも助成金を出していただき、無事に研修を終了することが出来ました。本当に有り難うございました。私に何かお手伝いできることがありましたら、させていただきたいと思っています。

以上、短いですが研修報告書とさせていただきます。

～＊～＊～＊～＊～冬季カンパのお礼～＊～＊～＊～＊～

ＮＰＪ会員各位

前回の理事会（2007/12/3、京都）決定に基づく冬季カンパのお願いに対して、以下のように 28 人の方々に、合計 238,500 円をお送りいただきました。ありがとうございました。

遠峰喜代子、高柳博一、馬渕広子、岡崎善郎、蛇石郁子、俵恭子、日隅一雄、中村健、渡辺叙子、大橋祐治、鞍田東、前田惠子、大石裕子、本東宏、岡林利明、中村朱里、江川嘉美、小林善樹、東豊久、小宮純子、田中泉、君島東彦、安藤博、大畑豊、中村ひろみ、安積遊歩、東佐知子、蓮見順子（順不同・敬称略）

すでに、夏と冬の年２回のカンパが恒例化しかかっています。しかしこれは、本来なら年会費収入によるべき事務所家賃や会報刊行などの基本的経費をまかなえない恐れがあるための、やむをえないカンパです。あくまでも緊急の必要に対処するための臨時の措置でなければなりません。

今後とも会員の増大、会費納入の確実化を実現することによって、収支の健全化に努めていきたいと思います。

共同代表　君島東彦
　同　　大畑　豊
事務局長　安藤　博

～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～～＊～＊～＊～＊～＊～

「地球の子ども新聞」に非暴力平和隊の特集

『地球の子ども新聞』（2007 年１月号、No.９９、発行：アース・チャイルド）に「武力で平和はつくれない」と題し、非暴力平和隊が特集されました。同紙は小学生高学年向けに作られている掲示新聞（B2 サイズ・カラー・１ページ、解説版 A4・白黒・４ページ）です。（次ページに掲載）

写真も多用しわかりやすくまとめられいますので、展示などにも適しています。

１セット 500 円（送料込み 600 円）で事務局で扱っておりますので、ぜひお買い求めいただき、宣伝等にご活用ください。多部数ご注文の方には割引致します。事務局までご連絡ください。

連載「日本のお気に入りの植民地・沖縄より」は、今号はお休みいたします。（編集部）

アース・チャイルド
158-0083 東京都世田谷区奥沢7-16-42
TEL&FAX 03-3703-5465
新規口座 00180-9-54024年日アース・チャイルド

地球の子ども新聞
環境フォトニュース
2007年1月15日発行
2007年1月
No.99

Nonviolent Peaceforce

協力｜非暴力平和隊・日本

武力で平和はつくれない

「守る平和から——創る平和を」。非武装の市民による紛争予防・平和維持の挑戦が始まっている。

1999年ハーグ市民平和会議

1999年、世界のNGOがハーグ市民平和会議に大結集、非武装の市民が平和維持活動を行う非暴力平和隊のアイデアが話しあわれた。

2002年設立

3年半の準備の末、非暴力平和隊の設立総会はインドのスラジクンドで開催された。ガンジーの孫エラ・ガンジーさんの講演もあった。

ノーベル平和賞受賞者が支持

軍隊のない国で有名なコスタリカのアリアス大統領(写真)、ポーランドのワレサ前大統領など、8名ものノーベル平和賞受賞者が非暴力平和隊の活動を支持している。

世界91のNGOがメンバー団体

非暴力平和隊の国際ネットワークは世界各国、91のNGOに広がっている。国際事務局はベルギーに置かれ、世界の平和を求める市民団体や個人がその活動を支えている。

世界で非暴力ワークショップを開催し、暴力の文化から平和の文化への転換を進めている。写真は大阪教室、デビッド・グラントさんによる非暴力トレーニング。

戦争や暴力に病んだ世界を変えようと、2002年に世界のNGOが、市民による非武装の平和維持部隊、非暴力平和隊を創設しました。80年代から、国家間の戦争より暗殺や誘拐、強姦など一般市民を巻きこんだ地域紛争が激しくなり、諜衛・監視活動を行うNGOが世界各地で活躍。暴力による人権侵害の防止に成功してきました。非暴力平和隊はこの成果を生かし、大きな暴力的紛争でも予防できる大規模な国際組織をめざしています。イラク戦争やパレスチナ紛争は武力で平和を回復できないことを示しました。混迷する世界を人間の叡智でどう克服するか。非暴力平和隊は非軍事・非武装による世界平和を唱えた日本国憲法の理想を実現するチャレンジとして注目されています。

2003年～スリランカ・プロジェクト

世界から選ばれ、特別なトレーニングを受けた非暴力平和隊のピース・チームがスリランカで平和維持活動を行っている。

スリランカ内戦 人口が多いシンハラ人中心の政府と少数派のタミル人勢力による内戦が1987年から20年続き、6万5000以上の人が亡くなった。2002年にノルウェー政府の仲介で停戦合意。和平交渉が始まったが、昨年7月から再び武力衝突が激しくなっている。

日本から天島みどりさんが最初の非暴力平和隊のピースチームに参加。平和維持のほか津波被災支援監視にも活躍した。写真右から2番目。

日本の平和のシンボルである折り鶴を作って、「共に平和をつくろう」と話しかける天島さん。世界から集まったメンバーは大感激。

選挙監視 2004年の大統領選挙では現地の住民組織と協働して、選挙の妨害、暴力による違反行為などを監視した。写真はパトロールするピースチーム。

暴力による人権侵害を許さず、平和の対話と活動を維持・促進し、真の平和的解決を。

いま世界の紛争地では、約20のNGOが非武装による紛争予防・平和維持活動をしています。非暴力平和隊はこのネットワークを生かした真にグローバルな国際組織です。国連PKO(平和維持活動)は国連安全保障理事会の決議で動きますが、非暴力平和隊の活動は世界人権宣言に基づきます。紛争地では市民の声が抑圧され、とくに平和団体や人権団体などが危険にさらされています。現地に国際的なピースチームを送り、国際的な監視で暴力による人権侵害を許さず、平和の対話を側面から支援しています。

護衛的同行 ピースチームは難民・誘拐の危険がある市民に同行し、身を守っている。写真は子どもの誘拐を恐れ、同行を依頼する親。紛争地では少年兵にする目的での誘拐が多い。

国際的プレゼンス ピースチームは「世界の目」として紛争地帯に滞在。軍隊者に武力行使が国際的に非難されることを知らしめる。写真はスリランカ少数派の警官との懇談。

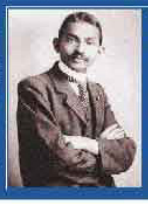
情報発信 暴力的行為が散発的に受け入れられない現場をつくって暴力を抑止。「世界が注目している」ことを分からせるため、メディアに映像や写真を配信している。

非武装の市民による平和維持の主なメリット

- 国連決議を必要としないので、早期に行動できる。
- 武器を持っていないので、被害者が極めて少ない(紛争にまき込まれにくい)。
- 現地に受け入れられやすいので、成功も多く、活動の幅も広い。
- 平和を維持するばかりでなく、非暴力の文化を創造できる。

もうひとつの9.11。昨年、ガンジーの非暴力・不服従運動、誕生100周年が祝われた。

非暴力・不服従運動100周年 非暴力平和隊のメンバーNGOであるスプラジピースは、1906年9月11日にガンジーが南アフリカで始めた運動の誕生を祝った。「二つの9.11の時間を変えよう」と非暴力平和隊への参加をアピール。



マハトマ・ガンジー(1869-1948)

インド独立の父。ロンドンで弁護士資格を取り、南アフリカで開業。インド人差別に対し非暴力・不服従運動で改革させた。母国語、イギリスの植民地支配にイギリス製綿織物のボイコットで抵抗。チャルカ(糸車)を回して、イギリスの経済支配からインド人の自立を自覚めさせた。その思想は、チャップリン、キング牧師、ジョン・レノンなどの平和活動に大きな影響を与えた。また、非暴力平和隊は毎年のガンジーが設立を急いだシャンティ・セナ(平和部隊)の夢を受けついでいる。

▲南アフリカ時代

▲暗殺で亡くなるまで、チャルカ(糸車)を回して、人間の自立・自由を唱え続けた。

●詳しくは…www5f.biglobe.ne.jp/~npj
●本紙の購読申込みは 電03-3703-9465 peace22@apis.plala.or.jp

総会・理事会のご案内

ＮＰＪ会員の皆様

年に１度の総会ならびにこれに付随して理事会が、下記の通り開催されます。この９月に非暴力平和隊（ＮＰ）の世界総会が開催されることを念頭に、今後のＮＰ、ＮＰＪの活動方針などを協議するための重要な機会となります。ひとりでも多くの方がご参加下さいますように願っています。

日　時：２００７年３月２５日（日）
理事会：午後１時～３時
総　会：午後３時３０分～５時３０分
場　所：文京区民センター・２－Ｄ会議室
電話　03-3814-6731
（都営地下鉄三田線春日駅下車、徒歩ゼロ分）
議　題：

１．２００６年度のＮＰＪ活動並びに（暫定）決算報告
２．２００７年度ＮＰＪ活動方針並びに予算
３．ＮＰの今後の活動展開について、ＮＰＪが２００７年秋のＮＰ世界総会に向けて提案すべきこと
４．２００７年８月に予定されている日韓交流会議の議題など、交流計画
５．その他

上記の議題に関わることとして、わたしたちＮＰＪは＜非暴力平和＞のためになにをすべきか、できるかにつき、時間に縛られずに十分に討議を重ねてみたいと考えています。このため、午後５時３０分までで議事を終了した後もお残りいただき、お時間の許す限り話し合いを続けることにいたしましょう（会場は午後９時３０分まで使用可能)。

事務局長
安藤　博

◆◆◆ 第5回 希望のための非暴力セミナー◆◆◆

「こんな絵本に出会いたい―子どもの本から学ぶ自分らしい生き方と非暴力」

木村民子さんは市民派無所属の文京区議会議員として現在２期目ですが、その傍ら様々な場でジェンダーの視点で問題を提起してきました。そして「男らしさ」「女らしさ」を超えて自分らしく生きる主人公などが生き生きと描かれている子どもの絵本や児童書などの中から、木村さんが選んで紹介した本を昨年１１月に出版しました。差別も暴力もない世界を子どもにもわかりやすく語りかけるこれらの本は、大人にとっても大変興味深く、引き込まれるものがあります。難しい思想書などとは違い、肩の力を抜いて子どもの気持ちに戻ってたまには絵本から新たな生き方を学んでみませんか。

参考文献：『こんな絵本に出会いたい――自分らしく生きるには』（亜紀書房発売）
1500 円＋税

講　師：木村民子さん＜文京区議会議員、『こんな絵本に出会いたい――自分らしく生きるには』著者＞

日　時：３月３日（土）午後６時３０分～９時

会　場：文京シビックセンター・４階和室１
東京都文京区春日１－１６－２１　TEL: 03-5803-1105
地　図：http://www.city.bunkyo.lg.jp/shisetsu/civic/index.html

交　通：東京メトロ地下鉄丸の内線・南北線「後楽園駅」徒歩１分
都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」徒歩１分

参加費：800 円

主　催：非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）TEL: 080-5520-3077
npj@peace.biglobe.ne.jp　http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/
ピースネット TEL: 03-3813-6490
peacenet@jca.apc.org　http://www.jca.apc.org/peacenet/

共に生きる社会をめざす連続講座

非暴力トレーニング・ワークショップ

非暴力トレーニングとは、より良い社会、人間関係をめざして行なうもので、簡単なゲームやシュミレーションを使って、身近な問題や大きな暴力に対して、どう対応したらいいのか、各人が意見を出し合い具体的に考えていきます。社会に存在する暴力をなくしていくには、それに働きかけると共に、その社会を構成している私たち一人ひとりの内にある暴力的な部分に気づき、それをなくしていくことが必要です。

このトレーニングがその第一歩となることを願っています。

（このワークショップは非暴力トレーニング・ファシリテーター養成も兼ねております）

○日程・内容

第１回　４月26日（木）　非暴力へのいざない――内なる暴力・他者との関係
第２回　５月17日（木）　日常生活・職場の暴力に、非暴力で対応する方法
第３回　６月 ７日（木）　社会問題・構造的暴力に、非暴力で対応する方法
第４回　６月28日（木）　非暴力主義者の実践・生活
第５回　７月19日（木）　いま、ここから非暴力の動きをつくる
番外編　８月 ２日（木）　（参加者と相談のうえ決定）

○ファシリテーター：

阿木幸男　成蹊大講師。「非暴力平和隊・日本」理事。「カンボジア教育支援基金」代表。
著書：「非暴力トレーニングの思想」（論創社）、「非暴力」（ビギナーシリーズ）など

○アシスタント・ファシリテーター

大畑豊（非暴力平和隊・日本　共同代表）、　青山正（ピースネット・市民平和基金代表）

○時　間：　19：00～21：00　（開場　18:30）

○会　場：文京シビックセンター（予定）　Tel: 03-5803-1105
東京メトロ地下鉄丸の内線・南北線「後楽園駅」徒歩１分
都営地下鉄三田線・大江戸線「春日駅」徒歩１分

○参加費：６０００円（全日程）
ただし参加条件として全日程参加できる人。定員 15 人。

○申込み：非暴力平和隊・日本　（同封のチラシ参照）　電話：080-5520－3077
Fax：03－5684－5870　メール：ohata-yu@jca.apc.org

○主　催：非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）　http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/
ピースネット　http://www.jca.apc.org/peacenet/

会員募集

■非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊･日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」**をご利用下さいますようお願いいたします。

◎正会員（議決権あり）
- 一般個人：１万円
- 学生個人：３千円
- ＊ 団体は正会員にはなれません。

◎賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：５千円（１口）
- 学生個人：２千円（１口）
- 団体　：１万円（１口）

■ **郵便振替：00110 - 0 - 462182　加入者名：NPJ**
＊通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。　例：賛助個人１口

■ **銀行振込：三井住友銀行 白山支店　普通 6622651　口座名義：NPJ 代表 大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話･ファックス･メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ 事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申し込み：http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html**

ご案内:

『平和･人権･ＮＧＯ　すべての人が安心して生きるために』（新評論、2004 年）

君島共同代表が「平和をつくる主体としてのＮＧＯ」という章で、ＮＰのことを詳しく紹介しています。この章の抜き刷りを販売しております。ぜひＮＰの紹介にご活用ください。Ａ５版・表紙カラー・一部３００円（送料別）、ご注文は事務局まで。

「ふくしま非暴力平和隊ネット」で試作した缶バッジ

非暴力平和隊を宣伝し、資金を集めるために、ＮＰＪ福島在住メンバーで作った缶バッジの普及にご協力ください。ＮＰの鳩のデザインをあしらった、かわいく、洒落たバッジです。価格は１個２００円で、１０個以上のご購入の場合は１個１００円です。
【９０円切手を貼った返信用封筒】と【代金の小為替】を同封して次までお送りください。〒９７１－８１７１　いわき市泉が丘２－３－４　鞍田　東

▲◈◉◍◙▣▤　事務局便り　▤▣◙◍◉◈▲

ここ２号、ページ数が少なくて、編集者の努力不足を反省しています。編集者の力不足を補うつもりで、これまで以上に、どしどしご投稿ください。（中里見 博）

非暴力平和隊(NP,Nonviolent Peaceforce)とは……

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO で、非暴力平和隊･日本(NPJ)はその日本グループです。
これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。NPはこれを大規模に発展させるために2002 年に創設されました。非暴力･非武装による紛争解決が「夢想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。
NPは、地元の非暴力運動体･平和組織と協力し、紛争地に国際的なチームを派遣、護衛的同行や国際的プレゼンス等によって、地元活動家等に対する脅迫、妨害等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、環境づくりをすることを目的としています。
NPは 2003 年9月からスリランカでの活動を開始し、現在16カ国から25人のメンバーを派遣し活動しています。